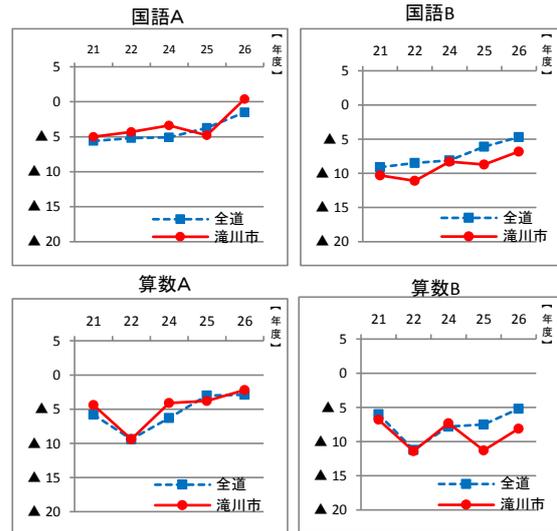
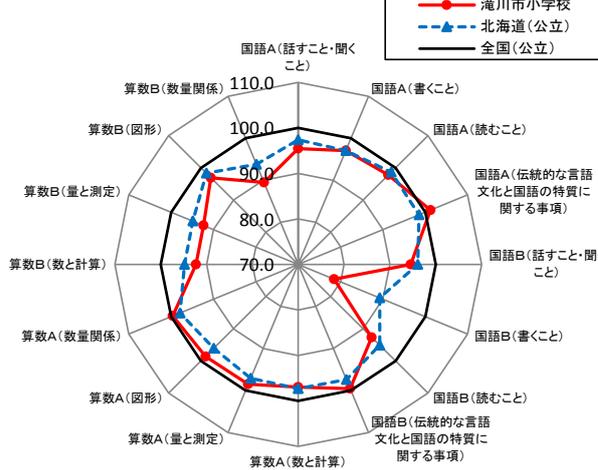


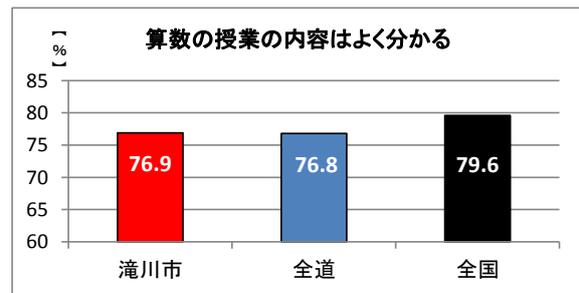
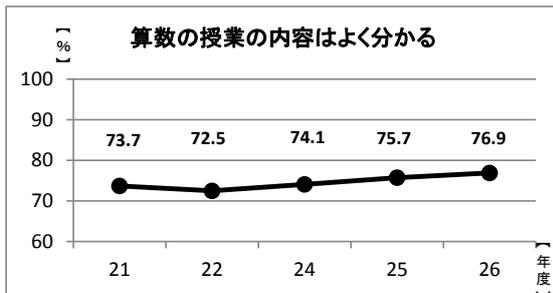
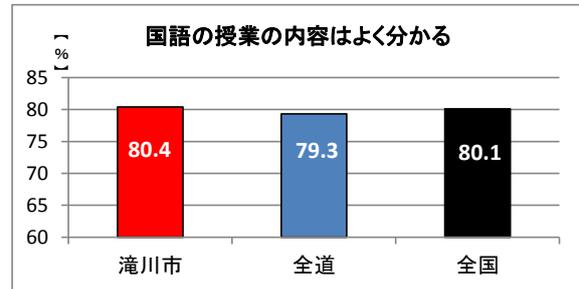
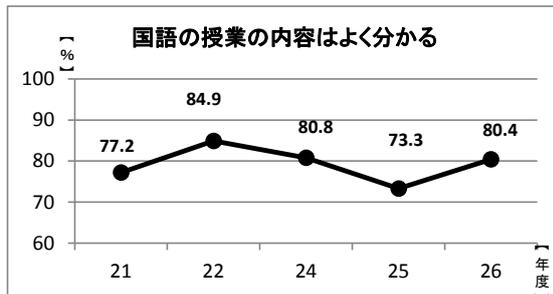
滝川市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:6校、児童数:311名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで表したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【児童質問紙調査】



【分析】

教科	○ 今年度は国語Aの結果が全国平均を上回った。平均正答率の推移では、算数B以外で全国との差が縮小傾向にある。	○ 各学校のPDCAサイクルに沿った学力状況の分析と授業改善に取り組んだ効果が上がっている。
児童質問紙	○ 国語と算数の授業内容がよく分かったと回答した割合が上昇傾向にある。	
学校質問紙	○ 学習規律(私語をしない、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底したと答えた学校が多い。	

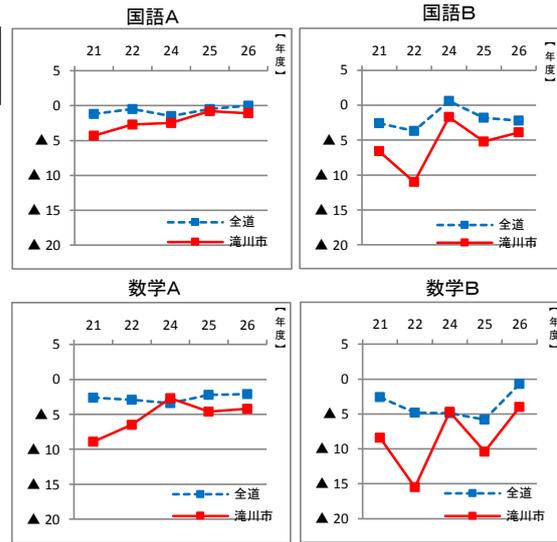
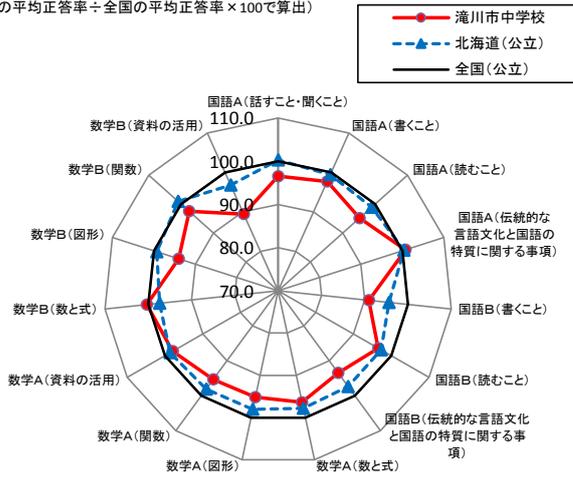
【滝川市の学力向上策】

- ◎ 学びの支援のため、退職人材活用事業や学びサポーターの配置など少人数指導体制を積極的に取り組んでいる。
- ◎ ティームティーチング指導や習熟度別指導を取り入れることにより、児童生徒個々が抱えている学習課題の解消を図っている。
- ◎ 本市独自に少人数学級実践事業を導入し、小学3・4年生に対してきめ細やかな指導・支援を図っている。
- ◎ 小学校全校で家庭学習の手引を作成し、家庭における予習や復習の大切さなど、保護者の協力を得ながら一層の取組を行っている。
- ◎ 本市で開催される全道国語研究大会を機に、国語Bの書くこと領域の授業改善を推進していく。

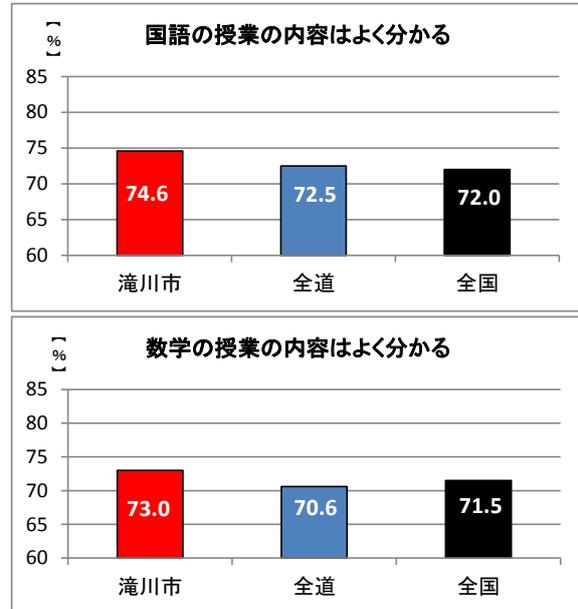
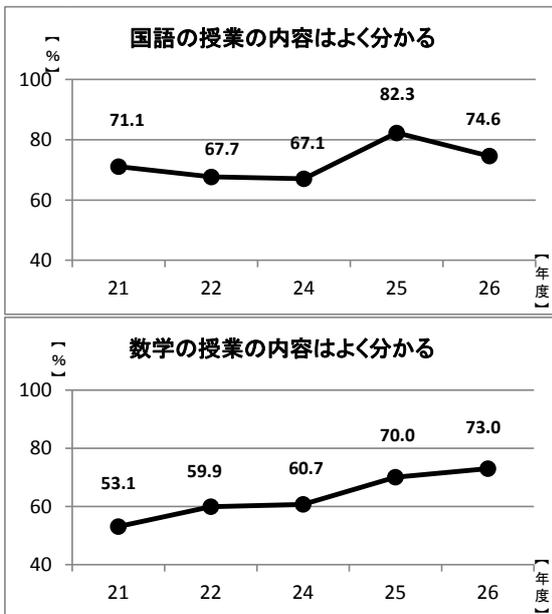
滝川市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:4校、生徒数:334名)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで表したもの(市町村の平均正答率÷全国平均正答率×100で算出)



【生徒質問紙調査】



【分析】

教科	○ 平均正答率の推移では、各教科で全国との差が縮小傾向にある。	○ 各学校のPDCAサイクルに沿った学力状況の分析と授業改善に取り組んだ効果が上がっている。
生徒質問紙	○ 国語と数学の授業内容がよく分かると回答した割合が上昇傾向にある。	
学校質問紙	○ 「国語における補充的な学習の指導」や「数学における反復練習を行う指導」に意欲的に取り組んできた学校が多い。	

【滝川市の学力向上策】

- ◎ 学びの支援のため、退職人材活用事業や学びサポーターの配置など少人数指導体制を積極的に取り組んでいる。
- ◎ ティームティーチング指導や習熟度別指導を取り入れることにより、生徒個々が抱えている学習課題の解消を図っている。
- ◎ 中学校全校で家庭学習の手引を作成し、家庭における予習や復習の大切さなど、保護者の協力を得ながら一層の取組を行っている。
- ◎ 新1年生の学力状況を小中学校の連携により早期に把握し、個に応じた指導に生かす。